

味で仰られたのではありません。

○内向きにながめる目

「悪人」とか「善人」とか

世間一般での「あの人は

か、「私はこんな良いこと
良い人だ」「悪い人だ」と

をしている」「悪いことをしてしまった」とかは、す

べて目が外向きなのです。
もちろんこうした善悪も

社会生活においては、大切なことです。

で仰る「善悪」とは、そう

分自身を内向きにながめた
時に気づく、もつと根源的

な「善悪」なのです。

の煩惱」といわれる心が、
絶え間なく起こる自分自身

の内面的な悪を指しているのです。

また、他の多くの命を頂
きながらしか生き

ることの出来ない
私の根源的な姿を



仰っています。
この内向きに見



たとえば「理解しやすいのではないのでしょうか」ということでした。

確かに、お医者さんの目
当ては病人であり、健康な

人よりも病人の人を優先にする、といっても誰も文句

は言いません。当然のこと
だと思っています。

同じように、阿弥陀様から見れば私たちは重病人で

あり、重病人であることに
気が付いて阿弥陀様に診ても

らおうとする人が優先して

ば納得がいきます。

この私がどんなに重病であ
ろうとも、阿弥陀さんと

いう名医に全てをお任せすることにあります。

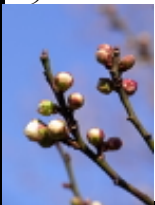
その重い病をすべて阿弥
陀様に任せきった上で、

『世のなか安穩なれ』と、

と尽くさせて頂くのが念仏

者としての姿勢なのではないか。

新年初お講
住職法話より



住職法話より